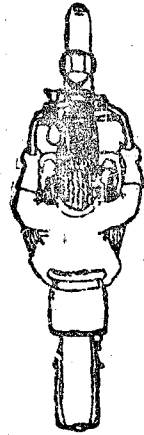


# 通信

## ○東京たより

田 中 生



肅啓、早や九月と相成殘暑厳しいとは申候ものゝ朝夕は有繋に秋らしき冷氣を覺へ申候、想起す二年前の今日此頃は彼の大震災火災の爲に都民は、寢食を求むるに急にして自己生命の維持に、力め鮮人騒ぎに日夜悩まれたるとき、今之を思ふだに肌粟を生ぜしめ申候、天災の恐るべく人爲を以て之を防止する能はずとせば何とかして其の災禍に依る損害を軽減する方法を講ぜむとは都民が言はずして期したる決心に有之、都民共同生活の爲には何物を犠牲とするも

此決意の實行を約し、復興の爲には罹災當時の心掛けを以て何事も爲すべしと爲したる所に有之候處、當時の災禍慘状未だ腦裡を去らざる今日、其の決意の實現如何を觀るときは轉た感慨無量なるもの有之候、頭に手拭足袋跣足と言ふ連中も今日は薄ものゝ和洋裝に舶來品の持物、何れも災前以上の贅澤に身を尙し居候、夫れも復興事業が進行したる後なれば強て咎むべき處に無之候得共、復興事業は都民が罹災當初に期したるが如き都民共同生活の觀念を忘れ私

收を我利的に主張して事業を滯滞ならしめ比較的容易なるべき街路改良事業さへ未だ完成したるものなき狀況に有之、如何に熱し易し冷め易き都民とは言へ、咽元過ぐれば暑さを知らずと言ふ淺はかな態度は災時寄與されたる地方有志の同情に對し面目なき次第に有之、吾人は切に都民の自覺を促して己まざる次第に御座候。

都民の此淺ましき狀態に對し遞信省や復興局や東京府市などが各種の手段を以て市民自覺心の喚起に力め居候得共、一向其の効果擧がらざるものゝ如くに被認候、一方若槻内相は遅々として進涉せざる復興事業の促進を圖るが爲に復興局の改造を聲明されたるやに噂され居夫れかあらむか一部の交迭を觀候得共、吾人の見を以てするときは事業に従事する官吏々員の交迭位にては到底其の目的を達することを得ざる義と存候、復興事業中最も困難をせらるゝ整地事業に就ては特別都市計畫法制定のとき、現在に觀る急進的なる假家屋の建設を豫想せざりし爲か兎角私權を尊重し過ぎたる嫌有之、爲に賃借人等の多くが所謂多衆を頼み

て復興事業に反對するに胚胎する由に有之、一事務官の談する所に依れば是等收利者が多數を頼みて毎日面會を強要し、私利を基として復興事業の廢止を陳情するもの日に何件なるを知らず、しかも之に會見せば事業に對する讒謗罵詈聞くに堪へざるものあり、陳情に聽けば他亦之を許さず整地の事業は到底迅速に完了するを得ず、しかも一日遅れば夫れだけ事業の困難を招來するものなりと申居候、固より私收を尊重することは當然にして殊に比較的豊裕ならざる賃借人の意見を容るゝことは結構に候得共、此の如き狀況を以てし復興事業の促進を遅延ならしむるに於ては公益上看過し能はざる所なるを以て、收利者の收利の主張が公益上障害と爲る限度に抑制する方法を講ずるの必要有之、是を爲すに非ざれば何年を経過するも復興事業は遂に途遠くして日正に暮れむとする感を抹殺する能はざることゝ存候に付、特別都市計畫法の一部を改正することが事業を促進するの途に非ざるかと存候。

吾人が立憲の本義に則つて其の成立を歓迎したる憲政會

内閣は、免角の批難ありしにせよ貴族院の一部改革を實行したるものなるを以て定めし從來の内閣が踏襲したる貴族院の懐柔政策を排して正々堂々論戰すること、存居候處、全ての期待は裏切られ矢張り依然として舊式政治の型を脱せず貴族院研究会と握手し是等幹部の八ヶ間敷屋に興ふるに政務官を以てしたることは吾人憲政會の爲に惜む所に有之、現閣が政治的存在を危まるゝ所以も、此の如き舊政治に災されたるに胚胎するものかと存候。一部論者の言ふ所に依れば如何に内閣を組織したりとは言へ下院三分一に依りて支持せらるゝ内閣なるが故に、せめて上院になりとも同情者否な應援者を有するに非ざれば所信を斷行する能はざるが故なりと申居候、併しながら下院に於ける與黨の多寡は來るべき議會を解散し始めて決定さるべきものにして、今更之を懸念して研究会に苟合するが如きは恐らく憲政會内閣を喜ぶ國民の期待する所には無之と存候、或は研究会との妥協は政友本黨との提携を策するの手段なりと申居候得共、吾人が再言致候通り主義政見を異にする政黨が

結合することは不自然にして假令一時的に協定することありとするも夫れは一事業の解決に關してのことにして内閣を組織する如きは根本的に相容れざること、被存、政友會との協調に苦き經驗を有する憲政會の企圖する所には無かるべく、結局國民と因縁の遠き貴族院の反對を恐れたるものと言ふの外なく憲政會の大失策と可評候世は既に普通選舉の時代に入り忘れられたる勞動階級否な無産階級が從來に於ける舊式政治を呪ひ参政慾を持して無産政黨の樹立を計畫せるときに方り、無産者と最も縁遠き特權階級と握手するが如きは著しく世情に迂なる仕業にして議會の解散を斷行するも到底憲政會の爲に有利とは難言切に憲政會の反省を求むる所に御座候。

貴族院多額議員の選舉に關しては政府黨も在野黨も血眼と爲つて應援致候得共、吾人を以てすれば是程無意義なものは無之と存候、由來貴族院に於ける多額議員多數の行動を觀るに餘り感心したものは無之、所謂貴族と勅選の一部野心家に嗽喉煽動せられて唯だ頭数を列へる位のことには有

之候、假令這般の改革に依りて從來の頭數を増加したと言ふもの、其の行動は俄に一變すとも難被認、従つて何れの政黨より之を選出するも貴族院の形勢を動かすまでに至らざるとは明らかに有之、又是等議員は有資産階級の極めて狭き範圍の者に依つて選舉せらるゝものなるが故に假令何れの政黨が多數を得たにせよ之を以て其の政黨に對する天下の信用を裏書きするものとは言ひ難く、貴族院の形勢を支配するを得ず天下の人心を卜するを得ずとせば、何を好んで世間を騒せたるや解するに苦しむ所に御座候、若し強て其の理由を求むるならば貴族院令改正後に於ける初選舉なること、憲政會内閣組織後に於ける選舉なるを以て來るべき衆議院議員選舉の豫備的演習なる位のこと過ぎず候、併しながら前申候通り此選舉の反映が貴族院の形勢に影響せずとせば唯だ初選舉と言ふ丈けのことにして何等の趣味無之、若し假に之を以て來るべき下院選舉の結果を推定するものとせずば、政友會及政友本黨の兩者が常套言たる政府の干渉呼ばりを爲しつゝ、在りしに拘はらず過半数を

占め、政府黨として有利の地位に在りたる憲政會が其の宣傳に反して反對兩派に及ばざるものあるを證明したる位に候、此結果を以て將來を推すときは現在下院に於ける三派の勢力と同一の比率を以て下院を構成するかを暗示し、憲政會の爲に將來に於て天下の人心を叫合することの必要を教へたる位のものに有之候、某氏の揚言する所に依れば吾黨に關係を有するもの多數を選出せしめ得たるは、以て有資産階級にも吾が黨内閣の政策に迎合するもの多きを立證するものなりと申居候得共、我國政治が常に有資産階級の意を迎ふるに急にして無産階級を輕視したるが爲、政治の不平等を絶叫するものあるに至りたる次第なるに、夫れを忘れての言論には惘れざるを得ざる所にして遺憾に不堪候。

此選舉に於て吾人に齎したる所のものには政黨の應援熾烈なりしだけ夫れだけ貴族院をして政黨化せしたる事に御座候、由來二院制樹立の理由として挙げらるゝ所のものは、貴族院は政黨を基礎とする衆議院の外に超然として個々の政策に付厳正公平に審議するを任務とすべく、之が爲に衆

議院に觀るが如き解散の制度を認めざるなりと言ふことに有之候得共、法治國に於ける國民が政治的に覺醒して國政に参加することは寧ろ喜ぶべき現象にして、之が爲に主義政見の一致を觀て結社するは自然の勢に有之、従つて貴族院が政黨化するも亦自然の趨勢かと被考候、理論に於て既に然る上は現在の政黨化も之を是認せざるべからず候へ共、之を徹底せしむるときは遂に二院制を採用したる根本義を覆することと可相成候に付、茲に於て貴族院制を理論的に改革するの必要を生ずるものに非ざるかと存候。

湯淺内務次官の退官は突然發表せられ事の餘りに意外なるに驚き申候、當の湯淺氏は靜養の意思を以て豫てより辭職の申出を爲し置きたるも諸種の事情に妨げられて遂に今日になつた迄のことなりと例の靜かな調子にて話され居候之を評する者は同氏が日常事務を執行する公平無私、眼中政黨政派の區別の如きを顧慮せざるが故に憲政會代議士の反感を買ひ遂に氏を追出したるものなりと言ひ、或は氏が這般行はれたる貴族院多額議員の選舉に對する政府の方針

に忸きたらざるものありしを以て自ら辭したるものなりと言ひ、其の傳ふる所區々に岐れ居候、之を難する者は現内閣が憲政會内に於て多數志望者ある中より湯淺氏を抜いて内務次官に据へたることは内閣の主義とする綱紀の肅正を表明するものにして、世上好評を博したる所なるに拘はらず今氏の退官に依つて政府從來の公平振を捨てたるもなりと言ひ、或は政治的地位を占むる警保局長をして後任者たらしむるが如きは政務と事務と區別する内閣の方針に反し事務を政治化するのなりと申居候、是等各種の批評攻撃は一見一理あるもの、如く被考候得共觀る人考ふる人の地位に依て異るべく候に付其の人の言ふ所に任せ然るべきことに御座候、併しながら一言し度は氏が公平無私の人にして部下を擁護し内務行政に通曉して部下を教養したる事に有之候、省内精通者の談する所に依れば政治的意義を有する事案の解決に就ては、先以て氏の公平なる判斷と指導を受け事務を處理したる趣にして省内の部下が氏を觀る慈父の感ありし由に御座候、此の如き狀態なりしを以て氏の退

官は著しく部下の身上を不安ならしめ悲觀の聲に充たされ居候。

風説に依れば川崎警保局長の後任未だ決定されざるは、多額議員選舉終了後に於て省内及地方官に大交迭を行ふ豫定なるが爲にして、今回の交迭は這般行はれた如き手續きものに非ずして憲政會單獨内閣の思ふ所に従つて遠慮會釋なしに行はるゝものなりと、若槻内相の腹の裡に入つて來た様なことを申す者も有之候、固より不純低能なる官吏を鹹首し大交迭を行ひ沈滞せる空氣を一掃し改革することは當に必要なることに有之其の必要は内閣の改造毎に生ずるものに無之候得共、從來の内閣が爲したる地方官交迭の跡を觀るに、事務家たるべき地方官を色眼鏡を以て政黨的に彩色視し本人の自ら知らざる間に政府自ら地方官を政黨北したる嫌有之候に付、若し今回も亦交迭するものとせば從來の内閣の爲したる此誤りたる方針を一擲して公平無私に人格と手腕を標準として目醒めたる交迭の斷行を祈つて已まざる所に御座候。

郡設所廢止に伴ふ善後策も稍や具體化されたる趣に有之、現在の郡長及郡書記の約三分の二は事務官及屬として地方廳に移管し、地方廳には地方書記官一名を配置して専ら地方行政監督指導の任に當らしむる趣に有之、是か爲に大正十五年豫算として八百萬圓を計上し豫算を要求したる由に御座候、之に依るときは現在郡設所に要する地方費年額九百三十七萬六千圓、郡長に要する經費百五十萬圓とに比較するときは二百八十七萬圓の經費を節約することに可相成候、併しながらいつぞや申上候通り郡設所の廢止に依つて地方自治體の失ふ不利不便は到底減額されたる經費の比に無之と存候、加之假令郡役所を廢止するも從來郡役所吏員が片手間に執行しつゝ、ありし水利組合又は町村組合等の事務は之を執行するもの無きことゝ可相成に付、是等の組合は新に新事務員を採用せざるべからざることゝ相成國家の大局より觀て眞に節約し得べき金額は言ふに足らざるものと存候、併しながら今は既に確定後に屬するを以て吾人は十五年度に於ける此制度の運用を監視し其の效果に

付所論を進め度考居候。

地方事業の爲にする起債に對しては大藏省が著しく之を査定し其の甚しきに至つては事業設計の内容にまで干拂するは面白からざること前誌に於て申上置候處、其の所論は政府の意見と一致し政府は近時著しく増加したる失業者救濟の必要を認め、從來の消極政策を緩和して地方事業の爲にする起債を許可すべき方針を樹立したる趣に有之、吾人は之に對し双手を舉げて賛成すると共に吾が言の實現を何となく痛快に感候、大藏省は常に財政の方面にのみ編育して社會を觀察し緊縮是れ政治家の能事と心得ることが間違に有之、殊に近時は一層その濃度を高めたる感有之候得共社會は兎角單純に扱はるべき性質のものに無之、歳出に依つて興すべき事業の直接の利益と間接の效果に依つて事態の良否を判断することを要し、失業者救濟の如きは間接的効果として吾人の舉けたる所、今此方針を改むるに至りたるは遲滯きとは言へ社會政策上喜ぶべきこと、存候、某政黨の如きは政府の此方針の變更を目じて緊縮方針の現代に

不適合なることを現はしたるものなりと攻撃致し居候へ共、是等は現内閣に反對せむが爲の理由にして消極政策を採る内閣と雖、時と場合或は物の性質に依つて政治上善所するを要するが故に今回の措置も已むべからざるに出でたるものとして咎むべきに非すと存候。

六大都市道路協議會も豫定の廻り内務省に於て開會され候、その會議の經過等に就ては路政僧が本誌に於て報導致居候に付詳述不致候得共、その會議に於て諸種の問題に付適當なる技術上の意見を陳述したるものは、矢張り前面に於ける會議と同様大阪市の獨占に歸し、内務省の技術家連や東京市の技術家連が思つたり考へて居るやうな問題に就ては既に大阪市は之を實施して相當の經驗を有し何事も大阪市が先輩の感あり、爲に某氏の如きは大阪市の計畫する技術に對して内務省は干渉すべからずとまで賞揚したる趣承り候、他市の言ふ所に依れば大阪市と同様各種の街路施設に付研究し度き事の多きを有するも、何分市の財政か之を許さないと申居候、固より大阪市は他市に比較して財力

豊富なるに相違無之候得共、大阪市の爲したる研究は日常執務する者が熱心と深き注意とを以てすれば其の目的を達し得るもの不尠、經費の不十分を理由と爲すが如きは自己研究の不十分に對する遁辭に外ならず候、今回の會議に徴しても大阪市の如きは、坂出部長始め關係各部長が多大の參考資料を携帯して出席したる一事に徴しても大阪市技術家の用意周到なる一端を知るに足ること、存候、吾人は我國街路行政の中心が必ずしも東京に在ることを必要と不致真に街路施設の模範を示す市が出来れば夫れで十分に満足する處に有之、大阪市當局が此意味に於て街路施設の範を天下に示さむことを期待すると共に大阪市技術家の健全を祈り是にて擱筆致候。敬具



### ○レデー・イン・ブーツ

親父の死んだ時たつた一匹のブーツと呼ぶ小猫を遺産として貰つた水車小屋の三番息子が、長靴を穿いた小猫ブーツの働きによつて王女の婿にまで出世すると言ふ筋の英吉利のお伽噺「ブーツ・イン・ブーツ」長靴を穿いたブーツを、夢のやうな記憶から呼び起すやうな出来事を東京の眞中で見た。輕い服装をした若い外國婦人が、雨の日に、納まりの悪いゴム製の長靴を穿いてヨイシヨとかけ聲が入り、さうな恰好でキマリ悪さうに歩いてゐる。道路は例の如く泥濘に加えて所かまはず蛙の飛び込みさうなプールが出来てゐる。荆棘を長靴に避けて、主人のために奔走するブーツならぬレデーは、主人のためか、御自身のためか、荆棘ならぬ泥濘とプールを越え踰えして何處へ行くのだらう。踵の高い華奢な短靴を穿いていつても四方に用達しに行けるやうに立派に出来てゐなければならぬ管の憧れの日本の首都に來て。仕方なしに長靴を穿いて歩いて、御自身や御主人の出世のたしになるか知り。重さうに長靴を引きすつて歩いてゐるキマリ悪さうな様子を、見て此方もまたキマリが悪い。日本を訪れる外人は、先づ「憧れの日本へ來たことを喜びます」と言ふ。そしてしばらくして彼等に訊いたらキツト「道路の悪いのを悲しみます……」と「ふだらうと思ふ。事程左様にいつまでたつても憧れの日本に不似合な悪道路が直つて呉れないことがキマリが悪い。お伽の國からブーツを招び寄せたら、荆棘の無い街の眞中で、何故長靴を穿くのだらう？」と言ふに違ひない。レデー・イン・ブーツ、ちやお伽噺にもなりさうもないぢやありませんか。流行の標語式に言ふ「お互に道路の改良に努力致しませう」と。(十八公)